

令和5年度さいたまマッチングファンド助成金一般助成事業 評価表

資料 1 - 2 - 4

団体名(所管課名) さいたま有機都市計画(農業政策課)

事業名 さいたまOrganicCityfes.

事業の目的 市民が地域で自分らしく生き生きと過ごし、健康に暮らせるまちづくりを目的とする。

事業の目標 市民が自ら心身の状態を知る機会を提供し、生活習慣の重要性や健康増進に寄与する活動を行う。また、食文化を学ぶフォーラムを開催し、食生活の改善や心の健康について考える機会とする。さらに、市民活動団体や他の関連団体との協働で事業を開催し、団体と団体及び市民の交流の場として各々に共通するテーマに協力し合えるネットワークの構築、ネットワークと行政との連携を広げていく。

該当する所に○をつけてください

項 目	評価の視点	評 価			評価理由など
		充分 できた	概ね できた	充分では なかった	
1 事業の目的と目標の設定	協働事業の目的・目標は、両者が共有・設定することができましたか。	○			私たちの団体のメンバーのほとんどが、さいたま市内における新規就農者であることから、日頃より農業政策課とは関わり合いが深くあり、事業の方向性やモチベーションなどの共有がとてもやりやすかった。
2 事業の成果	事業を実施したことで、地域や社会の問題を解決する成果はありましたか。 <small>(成果: 協定書に設定した目標の達成、参加人数等の事業の結果を表す数値)</small>	○			昨年に引き続き二回目となる開催であったが、前回を上回る参加団体や来場者数となり有機農業の課題や可能性を知ってもらい、農家と市民相互でこれからの農の問題について関心をもってもらうとてもいいきっかけになった。
	市民が市民活動に触れる、参加の機会をつくるなど、地域の市民活動の活性化につながりましたか。	○			来場者がとても多く、市民と農家との交流、市民同士の交流の場になった。また実行委員やボランティアスタッフとして市民が参加し、団体や行政だけでなく、たくさんの市民によりイベントを作り上げた。
3 協働事業の効果	協働により事業を実施したことで、事業に良い効果はありましたか。 <small>(良い効果: 互いの組織への良い影響、気づきやノウハウの獲得)</small>	○			これからのさいたま市の農業を担っていくうえで、農業者と行政が一つのイベントを作り上げ連携を一層強くできたこととても意義があった。また協働することにより団体だけの独りよがりなイベントにならず、より多くの市民に向けたアプローチをすることができた。
4 市民活動団体と担当所管課との連携	協働事業には、互いに情報交換し、連携して取り組むことができましたか。	○			もともと農業政策課のと関りが深い団体であり、とてもスムーズに連携をとることができた。
5 事業の適切な取組	事業実施にあたり、参加者や関係者等へ適切な声かけなどのフォローに努め、今後も繋がりが持てるきっかけをつくることができましたか。	○			このイベントを自立事業としてこの先も長くつづけていくために、フォローについては適切におこなうことができた。
★事業を振り返り、気づいたこと・感じたことを自由にお書きください。 (例) ・協働して感じたこと ・マッチングファンドの良い点、改善点など	昨年に引き続き市民活動推進課の皆様にも大変お世話になった。また市民広場周辺の施設の方にもご協力いただき大変感謝をしている。マッチングファンド事業はこれで当団体は終了だが、イベントを行うノウハウをこの事業のおかげで培うことができ、自立した事業へとてもスムーズに移行できると感じている。				

令和5年度さいたまマッチングファンド助成金一般助成事業 評価表

団体名(所管課名) さいたま有機都市計画(農業政策課)

事業名

さいたまOrganic City Fes Vol.2

事業の目的 市民が地域で自分らしく生き生きと過ごし、健康に暮らせるまちづくり

事業の目標

- (1)市民が自ら心身の状態を知る機会を提供し、生活習慣の重要性や健康増進に寄与する活動を行うこと。
 (2)食文化を学ぶフォーラムを開催し、食生活の改善や心の健康について考える機会とすること。
 (3)市民活動団体や他の関連団体との協働で事業を開催し、団体と団体及び市民の交流の場として各々に共通するテーマに協力し合えるネットワークの構築、ネットワークと行政との連携を広げていくこと。

該当する所に○をつけてください

項目	評価の視点	評価			評価理由など
		充分できた	概ねできた	充分ではなかった	
1 事業の目的と目標の設定	協働事業の目的・目標は、両者が共有・設定することができましたか。	○			当市はゼロカーボンシティの実現を掲げており、有機農業を推進していく中で、両者の利害を一致させながら、目標の設定ができたため。
2 事業の成果	事業を実施したことで、地域や社会の問題を解決する成果はありましたか。 <small>(成果:協定書に設定した目標の達成、参加人数等の事業の結果を表す数値)</small>	○			イベント当日は、多くの方に来場いただき、有機農業に興味を持ってもらうことができたため。
	市民が市民活動に触れる、参加の機会をつくるなど、地域の市民活動の活性化につながりましたか。	○			イベント当日、有機農産物の販売に加えてステージイベント等も実施するなど、市民参加を促す内容を盛り込んだ。
3 協働事業の効果	協働により事業を実施したことで、事業に良い効果はありましたか。 <small>(良い効果:互いの組織への良い影響、気づきやノウハウの獲得)</small>	○			イベント出店団体間で新たな交流を生み出すことができ、関係性の構築につながった。
4 市民活動団体と担当所管課との連携	協働事業には、互いに情報交換し、連携して取り組むことができましたか。	○			行政の役割とイベント主催団体の役割分担を明確にし、相互に進捗状況を確認しながら、イベントの運営を行った。
5 事業の適切な取組	事業実施にあたり、参加者や関係者等へ適切な声かけなどのフォローに努め、今後も繋がりが持てるきっかけをつくることができましたか。	○			新規就農や有機農業に関する問い合わせを多くいただくようになった。
★事業を振り返り、気づいたこと・感じたことを自由にお書きください。 (例) ・協働して感じたこと ・マッチングファンドの良い点、改善点など	有機野菜に興味を持ち、来場してくださる方が多く、行政の立場として協働事業に携わることができて良かったと感じた。次年度以降も、継続的にイベントが開催できるよう、広報や財政面でのフォロー策を考えていきたい。				

様式第7号 (第11条関係)

令和5年度さいたま市市民活動及び協働の推進助成金実績報告書

令和6年3月12日

(あて先)

さいたま市長

所在地

団体名 さいたま有機都市計画

代表者氏名 田島 友里子

令和6年3月8日付け市市協第5-38号で交付決定の通知を受けた令和5年度さいたま市市民活動及び協働の推進助成事業（一般助成事業・団体希望助成事業）が完了したので、さいたま市市民活動及び協働の推進助成金交付要綱第11条の規定により、関係書類を添え、下記のとおり報告します。

記

- | | |
|---------------------------|-------------|
| 1 交付決定額 | 金 243,343 円 |
| 2 精算額 | 金 243,343 円 |
| 3 事業実施報告書 | |
| 4 事業収支計算書 | |
| 5 添付書類 | |
| (1) 支出を証する書類 | |
| (2) 事業の成果物、写真、その他事業に関する資料 | |



令和 5 年度マッチングファンド事業実施報告書

団体名 さいたま有機都市計画

事業名称	さいたま Organic City Fes.	
実施期間	令和5年6月～令和6年2月	
総事業費	335,343 円（内訳は別添事業収支計算書参照）	
内助成金交付申請額	243,343 円	
事業の目的	*計画書の「1 現状における課題と事業の目的」（この事業は何を目的に設定しましたか？）の記載事項を転記してください さいたま市民が、有機農業に関心を持ち、地域循環や持続可能性の追求といった都市における農業の在り方を理解し、行政による主導ではなく自らがさいたま市の有機農業に様々な形で関わり、有機農業を通したまちづくりに参加するようになる。実際に昨年度の事業開催にあたり、多くの市民に運営に携わってもらい農業がより身近に我が事としてとらえていただけた。そのような感覚を市民間でもっと広げていきたい。	
	事業の具体的な内容	
	いつ	令和5年11月11日（土）
	どこで	浦和駅東口駅前市民広場
事業の実績	だれに	さいたま市民及び有機農業に関心がある方全般に。
	なにを	有機農家やボランティア市民による農産物の直接の販売や、ワークショップ、展示、相談窓口の設置、ライブなどを総合した有機農業のイベントを、有機農業に関心を持つ人の絶対数が多く、かつ、関心のない人でも気軽に立ち寄ることができる浦和駅前という場所で開催した。
	どうした	誰でも参加できる楽しい有機農業のイベントを通して、さいたま市における食や環境、今後の農業のあり方について市民が自然に考えるきっかけとなる場を、市民とともにつくり上げた。 「さいたま＝有機農業」という街のイメージを、街にくらす人たちみんなで作っていききっかけになった。
	(詳細な内容) 別紙のとおり	
事業の成果	成果	
	*事業の結果を表す数値を記載ください（例：参加人数等）。 前年売上（約 175 万円）を大きく上回る売上（全体売上 2,415,210 円）となった。会場とイベント内容の性質上正確な参加人数はカウントできないが、そこから推察すると、来場者数も前年より大幅に増え、さいたま市における有機農業の関心を広げ、その需要を満たすイベントとして意味のあるものになった。また前年より多くの農家に出店を呼びかけ参加してもらうことができ生産者同士の交流の輪も広げることができた。（前年 30→本年 46）また、飲食店には堆肥化可能な容器での飲食提供を呼びかけ、イベントで出る容器ごみについても資源として利用するという取り組みを行った。市民にも自宅から生ごみの持ち込みを呼びかけ実際に堆肥作りに参加してもらったり、各家庭で取り組める簡易なコンポストの紹介などの資源循環を周知するのを目的とした「循環ステーション」というブースを設け、訪れた方の興味関心を広げた。	
	効果	
事業の評価	*事業を実施することで、地域や市民にどのような良い結果をもたらしたか記載ください。 さいたま市を中心に活動する有機農業の実践者及び、それらの農産物を利用している飲食店や消費者が互いに交流することができる場として前年以上にとっても有意義な場となった。どういう人が作りどういう人が食べているのかという農産物に対してのそれぞれの実感を深めることができた。また循環ステーションの取組を通して有機農業そのものについての見識も広めることができた。2 年連続の開催により、その効果を一層高めることができた。また農業政策課による新規就農相談ブースを設けて、さいたま市での農業参入を目指している方と行政が話し合う最初のきっかけの場として機能することができた。さいたま市で就農すると、こういう形で農家同士がつながり、販売していくことができるという具体的な姿をイベントの中で示すことができた。	
	*事業実施にあたって、課題となった点、工夫した点、良かった点、苦労した点等、評価を記載ください。 前年の実績から参加を希望する出店者が多くなったが、会場のスペースが限られているため、一つのテントをシェアしてもらう共同ブースを増やし、なるべく多くの出店者が参加できるように工夫をした。本年をもってマッチングファンドが終了することから、今後自立して開催していく資金を調達するため、さいたま市内の農や食関連を中心とした多くの企業へ向けて、今回イベントへご参加いただき実際にその様子を見てもらうための案内状を送付した。今回は具体的な協賛は受け付けていないが、募金を希望してくれた来場者もいたことから、協賛についての手ごたえを感じた。今後は実際に協賛の受け入れの枠組みをしっかりとつづけていく。また前年に	

	<p>引き続き開催回数をもっと増やしてほしいという声を多くいただき、次年度は具体的に開催回数を増やしていく予定で動いている。また、さいたま市で活動する4団体（バンド、浦和一女合唱部、浦和音頭盆踊り）にステージイベントを依頼し、主催者自身ではリーチできない多くの方にも来場をうながすことができた。イベント実施前後においてメディアからの取材も多数いただき、客観的にも社会性としても意義のある事業になった。</p>
<p>今 後 の 展 開</p>	<p>*この事業は、次年度以降どんな事業展開を考えていますか？ ※翌年度以降の継続性、協働や自立事業への見込みなどについて記入してください。</p>
	<p>すでに次年度の開催も予定している。引き続き農業政策課に協働してもらい、農業関連の助成金を取り入れての開催を検討している。また企業や個人からの協賛の募集も行う。実行委員を農家だけではなく地域の様々な立場から広く募集し、市民自らが積極的に関わられるようなイベントにしていく。</p>

事業の内容		
実施時期	労力換算番号	実施内容
R5.6.10	1	実行委員の結成。事業趣旨の説明会。目的の共有。マッチングファンドについての共有。イベントまでの大まかな流れの作成。
R5.7.8	2	実行委員打合せ。イベントの流れの作成。ステージイベント案の打合せ。チラシやステージ、出店者対応、当日対応などの役割分担決定。テントについての話し合い。出店者よびかけ。
R5.8.5	3	実行委員打合せ。各担当による進捗報告、チラシなどの締め切りを決める。ステージについての話し合い。テント状況把握。出店者リスト作成。出店者説明会の会場、日程の決定。
R5.9.9	4	実行委員打ち合わせ。チラシたたき台からの意見交換。出店者決定。循環ステーションについての話し合い。農政課へ就農相談ブースを依頼、道具の貸し出しについての相談内容決定。自立事業にむけて協賛企業へのイベントへの招待状を作成する案を検討。ステージの決定。
R5.10.7	5	実行委員打合せ。チラシ案の決定。印刷枚数や大きさ、配布場所、配布方法の決定。協賛企業への案内状送付開始。ステージ団体の決定。イベントの流れの作成。出店者説明会に向けての準備。テント配置案作成。
R5.10.17	6	春岡広場会議室にて出店者説明会を開催。出店者同士の顔合わせ。イベント概要と目的の説明。飲食店には分解性の容器の使用を依頼。当日の搬入出の流れや注意事項などの説明。
R5.10.31	7	実行委員打合せ。最終の確認。当日タイムスケジュール作成、確認。テントレイアウト決定。取材対応者や内容の決定。循環ステーション内容決定。延期の場合の条件の確認。

R5.11.11	8	<p>イベント開催。46 の出店団体による有機栽培による農産物や飲食物の販売、農的ワークショップの実施。資源循環を体験する循環ステーションの実施。農政課による就農相談。ステージ（ビオ見沼、ペコンボによる農家バンド、浦和一女高校合唱部によるコーラス、よいよいブギーによる浦和音頭盆踊り。風が比較的強く（風速 5m ほど）安全のためテントの幕をはずして開催した。</p>
		 <p>The top-left photo shows a large crowd of people gathered in front of a building. The top-right photo shows a stall with various items on display and people interacting. The bottom-left photo shows a person at a stall serving customers. The bottom-right photo shows a large group of people posing for a group photo in front of a building.</p>
		<p>前年に引き続きイベントへの来場者、出店者両方から「楽しかった」、「つながりができて嬉しい」、「定期的開催してほしい」、「市内の有機農業の盛り上がりを感じ取れた」などの声をいただいた。</p>
R5.11.21	9	<p>出店者による反省会。今後の会場の検討。出店希望者増加の場合の対策。売上報告。各自意見の聞き取り。</p>
R5.12.18	10	<p>実行委員反省会。次年度への課題を共有。自立事業へむけての資金集めについての打合せ。</p>
R6.2.28		<p>次年度に向けた打合せ。</p>
R6.2.29		<p>報告書作成、提出。</p>

事業収支計算書 (計画、交付申請、変更、実績)

<収入>

単位：円

区分		算出根拠	金額
収入合計 (A)		(a) + (b)	335,343
自己資金額 (a)		①～⑥の合計 (d) と同額	92,000
団体の自己資金	① 自己資金	会費	0
	②		
	③		
費用の徴収	④ 出店料	出店者40 (農家3000飲食5000共同は按分)	92,000
	⑤		
	⑥		
助成金交付申請額 (b) (助成金収入・100万円以内)		(c) と同額	243,343

<支出>

区分		算出根拠	金額
支出合計 (総事業費) (B)		(c) + (d)	335,343
助成対象経費のうち 助成金限度額を上回らない経費	① 印刷製本費	チラシ2万枚 (デザイン、印刷、ポスター) (160,495円のうち助成金充当分)	93,495
	② 謝金・報酬	パフォーマー三団体謝礼、音響使用料 (130,000円のうち助成金充当分)	105,000
	③ 消耗品費	インク、用紙、設常用ドライバービット、封筒等	14,678
	④ 保険料	イベント保険	23,030
	⑤ 役務費 (通信運搬費等)	協賛募集のため企業に向けて案内状の送付	7,140
	⑥		
	⑦		
	⑧		
	⑨		
	⑩		
助成金充当経費計 (c)		①～⑩の合計 (b) と同額	243,343
助成対象経費のうち 助成金限度額を上回る経費	⑪ 謝金・報酬	パフォーマー三団体謝礼、音響使用料 (130,000円のうち助成金限度額を上回る分)	25,000
	⑫ 印刷製本費	農家マップデザイン、印刷 (160,495円のうち助成金限度額を上回る分)	67,000
助成対象外経費	事業に附随して 必要な経費 ((c)の10%以内)	⑬	
		⑭	
		⑮	
	事業に附随して 必要な事務局 人件費	⑯	
		⑰	
		⑱	
		⑲	
		⑳	
自己資金充当経費計 (d)		⑪～⑳の合計 (a) と同額	92,000

※(A)=(B)、(a)=(d)、(b)=(c)となるように記入してください。